Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2024-06-05

巻頭言 ： 夢が詰まった博物館作りを目指して

石田, 憲治

(Citation)
海事博物館研究年報,38

(Issue Date)
2010-03

(Resource Type)
other

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81005598

巻頭言

夢が詰まった博物館作りを目指して

海事博物館館長　石　田　憲　治

今年度の企画展テーマは“江戸時代の海路の賑わい”そして市民セミナーのテーマは“海路図や絵巻から見る江戸時代の海路の賑わい”でした。どちらも海路図や絵巻物を主体に江戸時代の国内物流、人の動き、観光について海路がよく利用されていたことを広く紹介することが目的でした。

企画展は博物館所蔵の六曲一双の金屏風や江戸―長崎間海陸の絵巻物展示。

神戸市在住の本屋敷　勝也氏から寄贈を受けた、微細で詳細な海浜ジオラマと多数の額に入った船や波が立体的に表現されたフレームシップ。そして、数年前に電子化された浪速―江戸海路図を大型プロジェクターで細部を見るコーナーで構成されました。

また、博物館と協働で造船資料の保存・整理をキャンパス内で進めている、日本船舶海洋工学会関西支部造船資料保存委員会が、「波なし船型の研究と“くれない丸”における大型球状船首の実践試験」と題して共催の展示会を博物館の一角で昨年に引き続き開催しました。

今年度の企画展開催や博物館活動できたのは、全構成員が展示、資料整理、データーベース化等これまでのノウハウに新しいアイデアを加味しながら、新陳代謝しているからこそ実行できたと思います。特に、全国的に「坂本　龍馬」ブームもあったことから、明治維新に関連する企画展を行なった各地の博物館から、維新前後の海事資料の借用依頼がありました。このことは、本博物館が刊行してきた図録やホームページ上での所蔵資料を発信してきたことに由来します。

企画展やセミナーを介して、昨年より多くの人が「深江の海事博物館」に立ち寄られたことは開催した意義は十分にあったといえます。

来年度も、海事の過去、今、未来（夢）が詰まった博物館作りに邁進します。